

戒浄上人の偉大な点



奈良市

岡 潔 331

奈良女子大学名誉教授
文化勲章受賞者

岡潔先生の奥様のお姉さんは藤野あいさんと言い、その御主人が笹本上人のお別時に参加して人格が一変し、その身業説法であいさんもお念仏する身となられたが、「潔さんにお念仏して貰うのがわたしの一生の念願だ」と、先ず妹さんの岡奥様にお念仏を勧められた。このようにして岡奥様もお念仏者となられ、続いて先生も亦お念仏を始めるようになられた。これが岡先生の光明主義入信の経緯である。しかし先生の光明主義入信の内面的な経緯は先生自らがエッセイの中で何回か記述していられるので省略するが、「その準拠すべき師父弁栄聖者の御遺稿の解釈は笹本上人の指南によるべきだ」という光明主義中心道の信条に共感、爾来光明主義の本質意義に傾倒され、多数の青年学生を光明主義に誘引された。今先生の戒浄上人に対する讃歎を要約すると、次の如くである。

現在の自然科学の体系は決して自然の存在を主張しえない。それを簡単にみるには数学をみればよい。数学は自然数の一とは何であるかを知らない。知らないだけでなく、ここはとうてい手におえないとして、初めから全然不問に付している。数学が取り扱うのは次の問題からである。自然数の一が在ると仮定しても矛盾が起らないか、という問題から向こうである。自然数の一があると仮定しても矛盾が起らないことの証明は将来人の心で完全にできるのか、それとも人の力ではできないのか、全く不明である。(註) 近年ゲール(1906—78)によって不完全性定理とよばれる主張が得られて、それによると「自然数の体系が無矛盾であることは、自然数の体系内では証明できない」ということが証明されている)もし証明できたとしても、「自然数の一があると仮定

しても矛盾しない」と言えるだけで、自然数の一そのものの本質真相には全く触れていない。これが肉の心だけを認めて宗教的方法（仏教のいわゆる慧眼・法眼・仏眼の認識能力）を認めない現在の数学、自然科学の立場だと思ふ。

光明主義の弁栄聖者の跡を嗣がれた笹本戒浄上人はこう言われた。「自然数の一は三身四智の仏眼を得てはじめてわかる」と。三身四智の仏眼とは絶対中心・報身の理法を悟るといふ非常に高い悟りの位である。この上人はそこに達していたのであるが、そういう人はめったにいない。

上人は又こうも言われた。「弁栄聖者が自ら実地踏査済の事実として切り開いて下さった終局目的である認識的一切智を実現する過程において、必ず達成しなければならない二次的目的と三十七道品で示される中心道の修行法の全体を信じて、お念仏する時現在の自分より一步進んだ所に当座の目標を定め、当念の念仏によつて必ずその目標を達するように努力せよ」と。終り迄聞かす事は初めて入ろうとする人に話す時に必要である。最後迄どうなるかを知らせて、人に取捨選択さす事と、心構えをしつかりすること、のためである。これも光明主義における達人としての笹本上人の御意向の現われと思ふ。

私が上人において特に感心するお偉い点は、お念仏がはつきりできるようになるまでに十一年と、ごく初めのところに十分力を入れておられるのと、弁栄聖者とその光明主義に無私であった点です。それで上人の心の軌跡を示す『真実の自己』や『如来の實在』等著作集を心配なこの地球の人々のために是非早く出版してほしい。